

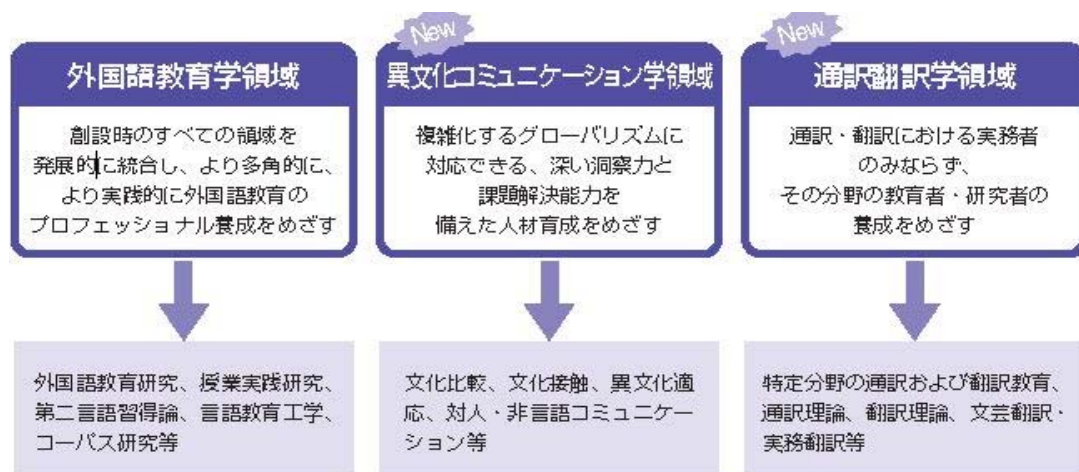
# 通訳翻訳領域

## Graduate Program in Interpreting and Translation

2014年4月開講

新規開設プログラム 第1期生募集中

関西大学大学院外国語教育学研究科では、2014年度から新たに「通訳翻訳領域」を設置し、博士前後期課程の指導を開始します（現時点での指導対象言語ペアは英日のみ）。指導に当たる教員には通訳翻訳分野の第一人者を揃えるとともに、言語学、言語教育学（英語教育）、異文化コミュニケーション論等の理論系科目と、通訳翻訳の実践系科目をバランスよく配置したプログラムが用意されています。詳しくは本学ウェブページをご参照ください。



第1期生最終入学試験日：2014年2月22日

出願書提出期間：2014年1月7日～14日

出願方法：以下のウェブサイトから出願資料入手

[http://www.kansai-u.ac.jp/Gr\\_sch/guidebook.html#A13](http://www.kansai-u.ac.jp/Gr_sch/guidebook.html#A13)

## 関西大学大学院 外国語教育学研究科

### 通訳翻訳学領域

#### ミッション・ステートメント

グローバル化の一層の進展とともに、各分野における通訳者・翻訳者のニーズがますます高まってきている。その一方で、将来を担う通訳者・翻訳者の教育を担当する良質の指導者が不足しており、大学および民間の各種教育機関においても、何らかの理論的または実証的根拠にもとづいた体系的指導がなされているとは言い難い状況にある。そのような背景のもと、本研究科では、外国語教育学と異文化コミュニケーション学の高度な専門知識を備えた通訳翻訳教育者を養成するとともに、通訳翻訳現象を学問的な立場から探求する若手研究者を養成するために、新たに「通訳翻訳プログラム」を立ち上げた。

さらに、同プログラムは、その教育目標として、TILT (Translation and Interpreting in Language Teaching) の理念と教育方法論を身につけた外国語教育専門家の養成と、高度な学問的見識を備えた通訳翻訳実務者の養成（高度職業人再教育）を挙げている。前者は、主として本研究科で外国語教育学を専攻する学生に対して、現在、世界的に注目を集めている TILT の理念と教育方法論を教授し、通訳翻訳分野で培われた実践的言語運用能力と異文化コミュニケーション能力養成のためのノウハウおよびその理論的基盤を身につけた外国語教育専門家を養成することを目標とするもので、後者はすでに一定の実績のある現役の通訳者・翻訳者を対象に、通訳翻訳関連諸分野の高度な学問的知識を教授することを目的としたものである。

#### 教育目標

1. 外国語教育学と異文化コミュニケーション学の高度な専門知識を備えた通訳翻訳領域の研究者および教育者の養成
2. TILT (Translation and Interpreting in Language Teaching) の理念と教育方法論を身につけた外国語教育専門家の養成
3. 高度な学問的見識を備えた通訳翻訳実務者の養成（高度職業人再教育プログラム）

※上記ミッション・ステートメントにあるとおり、本研究科は、通訳翻訳分野の研究者・教育者の養成に主眼を置くが、通訳翻訳の実践能力も合わせて指導・訓練する。学生は、在学中「通訳実践研究 1～2」または「翻訳実践研究 1～3」のいずれかの科目を合計 6 単位（3 科目）以上履修し、かつ所定の実技試験に合格しなければならない。

#### 修士課程（博士課程前期課程）のコース構成

2 年制コースと 3 年制コース、および 1 年制コースを置く。このうち、2 年制コースと 3 年制コースは主として研究者・教育者の養成を目的としたもので、1 年制コースは通訳または翻訳の実務経験を持つ実務家のための高度職業人再教育コースとする。それぞれの概要は以下のとおりである。

## **2 年制コース／3 年制コース**

対象：通訳翻訳分野の研究者および教育者を旨とするもの、または TILT の理念と方法論に関心のある外国語教育関係者。通訳翻訳分野の実務経験を有するものが望ましいが、必須要件とはしない。

修了要件：32 単位（16 科目）以上のコースワークおよび修士論文または課題研究レポート（このほか、領域指定の実技試験に合格しなければならない）。

学位名：修士（外国語教育学）

専門領域の必要単位数：修了要件単位 32 単位のうち、指導教員の担当する演習科目 4 単位のほか、コア科目 4 単位（2 科目）以上を含む 12 単位（6 科目）以上を通訳翻訳領域専門科目群から履修しなければならない。

実技試験：実技試験はゼミ（前期課程演習）の修了要件のひとつとして、M2 生（3 年制コースの場合は M2 生）を対象に、春期末と秋期末にそれぞれ 1 回ずつ実施する。春期試験に不合格だったものは秋期に再受験することができる。秋期試験で不合格だった場合は 1 回に限り追試を受けることができる。追試も不合格だった場合はゼミの単位を取得することができず、したがってその年度の修了はできない。実技試験の詳細は、別途定める「通訳翻訳領域実技試験実施要領」による。

博士課程後期課程への進学：2 年制または 3 年制コースを優秀な成績で修了したものは、進学審査を経て博士課程後期課程に進学することができる。

## **1 年制コース（※ 1 年制コースは 2016 年度以降、開設の予定）**

対象：通訳翻訳の実務経験者で、近い将来、通訳翻訳またはその関連分野において後進の指導に当たることを目指すもの。

資格：通訳または翻訳の実務経験が 5 年以上の者またはこれに相当する顕著な実績のある者で、本学所定の実技試験に合格したもの。なお、1 年制コースの履修者はフルタイムで学業に専念することが求められる。

修了要件：30 単位（15 科目）以上のコースワークおよび本学所定の修了試験の合格をもって修了認定とする。なお、修了試験には実技試験が含まれる。

学位名：修士（外国語教育学）

専門領域の必要単位数：修了要件単位 30 単位のうち、指導教員の担当する演習科目 4 単位のほか、コア科目 4 単位（2 科目）以上を含む 12 単位（6 科目）以上を通訳翻訳領域専門科目群から履修しなければならない。

実技試験：入学に当たって実技審査を経ているため、原則として免除。ただし、指導教員の判断により、実技試験を課することがある。

博士課程後期課程への進学：1 年制コースは原則として博士課程後期課程への進学を前提としないが、前期課程修了後の実績に応じて博士後期課程への進学を考慮することがある。

## 2014年度 通訳翻訳領域（博士課程前期課程）の開講科目一覧

※開講科目および開講の曜日時限は変更されることがあります。

種別	科目番号	科目名	単位	学期	曜日 時限	担当 教員	講義概要
コア科目 (選択必修)	M380	通訳教育方法論 1	2	春	金 7	染谷 泰正	通訳の理論と実技、および通訳教育を巡る諸問題について、関連諸科学の成果を取り入れた総合的な「通訳教育方法論」の体系化を試みる。春期授業では主として同時通訳の基礎的な訓練を行うとともに、同時通訳を可能にする認知的・言語学的なメカニズムについて理解を深める。
	M381	通訳教育方法論 2	2	秋	金 7	染谷 泰正	「通訳教育方法論1」の発展的内容を扱う。秋期授業では主として逐次通訳の基礎的な訓練を行うとともに、通訳ノートテイキングの理論及びこれに基づく指導法について議論する。年間を通して外国語教育における通訳教育とプロ通訳者養成のためのカリキュラム・指導法という2つの観点から議論を進める。 <sup>1)</sup>
	M382	翻訳教育方法論 1	2	春	木 4	菊地 敦子	翻訳の理論と実技、および翻訳教育を巡る諸問題について、関連諸科学の成果を取り入れた総合的な「翻訳教育方法論」の体系化を試みる。春期授業では主として TILT（語学教育における翻訳）の理論的背景について議論する。
	M383	翻訳教育方法論 2	2	秋	木 4	染谷 泰正	「翻訳教育方法論 1」の発展的内容を、主として翻訳指導カリキュラム、教材論、および翻訳方法論を中心に扱う。ただし、指導技術論にのみ偏ることなく、What to teach (to whom and why)? という原理的な問題への取り組みを重視する。受講者の専攻言語は問わないが、扱う素材は日本語と英語に限定する。
講義科目 (選択必修)	M384	通訳翻訳研究 1 (基礎文献講読)	2	春	土 4,5 隔週	染谷 泰正	通訳翻訳の基礎的な理論を扱った概論書を精読する。原則として英語で書かれたものを使用する。授業は土曜隔週で2時限連続で行う(授業時間外の自主学習セッションや研究会への参加が加わることがある)。
	M385	通訳翻訳研究 2 (通訳翻訳と認知言語学)	2	秋	火 4	菊地 敦子	In this course I will present an overview of cognitive linguistics and look at how the theory can be applied to the study of translation. Language of instruction will be in English and examples will be taken from English and Japanese, but the course is open to all language majors.
	M386	通訳翻訳研究 3 (通訳翻訳と語用論)	2	春	金 4	A. パーク	In this course, students will be introduced to key concepts from the field of pragmatics and their relevance to translation and interpreting will be considered through comparisons of the linguistic behaviour of Japanese and English speakers. Class sessions will be conducted in English and Japanese.
	M387	通訳翻訳研究 4 (通訳翻訳と異文化コミュニケーション)	2	秋	土 1	福井 七子	翻訳は異文化理解の重要なツールであるが、同時に文化摩擦を生じる危険性もはらんでいる。西洋人の手による日本文化論は、邦訳された後、他の言語にも翻訳されている。しかし諸般の政治的背景もあり、さまざまな「翻訳」が誕生する結果となっている。これらの問題点を取り上げ、研究の俎上にあげる。
実践科目 (選択必修)	M388	通訳実践研究 1 (英日同時通訳演習)	2	秋	土 2,3 隔週	宮元 友之	「通訳教育方法論 1・2」の履修者または既履修者を対象に、英日の同時通訳演習を行う。授業は土曜隔週で2時限連続で行う。教材は原則として「通訳訓練教材データベース」の中から受講者のレベルに合わせて適宜選択する。
	M389	通訳実践研究 2 (英日・日英逐次通訳演習)	2	春	土 2,3 隔週	ヤン 奥村	「通訳教育方法論 1・2」の履修者または既履修者を対象に、英日・日英の逐次通訳演習を行う。授業は土曜隔週で2時限連続で行う。教材は原則として「通訳訓練教材データベース」の中から受講者のレベルに合わせて適宜選択する。
	M390	翻訳実践研究 1 (文芸翻訳 1)	2	秋	金 4	石原 敏子	英語または日本語で書かれた絵本や児童文学、短歌、詩などのテキストを中心に、原典を丁寧に精読するとともに、異文化間コミュニケーションおよび文化の移転という観点から「翻訳」の諸問題を考える。
	M391	翻訳実践研究 2 (文芸翻訳 2)	2	秋	月 7	李 春喜	物語理論や日本語について学び、物語の構造を意識しながら、日本に翻訳のない、英語の文芸作品を翻訳する。
	M392	翻訳実践研究 3 (ノンフィクション翻訳)	2	春	月 7	S. ギブス	This course will provide students with the opportunity to translate a variety of non-fiction texts from Japanese into English and vice versa. Students are expected to have an excellent, if not near-native, command of both Japanese and English.
特殊科目 (選択必修)	M393	通訳翻訳特殊研究 1 (通訳翻訳実務の諸問題)	2	秋	冬期 集中 <sup>2)</sup>	山田 岩坂 赤瀬川 他	通訳翻訳の実務を巡る諸問題 (e.g. 出版翻訳の実務と市場動向、機械翻訳と翻訳テクノロジー、翻訳におけるコーパス利用、ローカライゼーション、通訳業界の市場動向と通訳エージェントの役割など) について複数教員および実務者によるオムニバス形式の授業を行う。
	M394	通訳翻訳特殊研究 2 (西欧諸国の翻訳論)	2	春	金 6	三ツ木 藤田 他	英、独、仏を中心に、西欧諸国における翻訳論および翻訳を巡る諸問題を多言語・多文化的視点から議論する。講義は各言語・文化圏を専門とする複数の教員によるオムニバス形式で行われる。

1) 「通訳教育方法論」および「翻訳教育方法論」の1と2はそれぞれ原則としてセット履修とする。いずれも受講者の専攻言語は問わないが、講義は日本語または英語で行い、扱う素材(教材)も日英いずれかの言語によるものに限定される。

2) 冬期集中授業：2015年1月23日, 24日, 29日, 30日, 31日

※修了要件単位 32 単位のうち、指導教員の担当する演習科目 4 単位のほか、コア科目 4 単位 (2 科目) 以上を含む 12 単位 (6 科目) 以上を上記の通訳翻訳領域専門科目群から履修しなければならない。他領域の科目の履修については指導教員と相談のうえ決定すること。

平成26年度 外国語教育学研究科 通訳翻訳領域および他領域の関連科目 時間割表 (黄色 = 通訳翻訳専門科目)

		月		火		水				
4				○ M	異文化コミュニケーション研究	八島			4	
				○ M	外国語分析論 1 (日本語)	柳地 (教)				
				× M	通訳翻訳研究2 (※通訳翻訳と認知言語学)	柳地 (教)				
5		○ M	外国語分析論 2 (※日英対照)	加藤	○ M	外国語能力測定・評価論	水本	○ M	外国語教授方法論2 (日本語)	三牧
					× M	言語コーパス論	水本	× M	外国語教育論5 (文法) (日本語)	建石
6		○ M	外国語教材開発1 (※デジタル教材)	吉田	○ M	基礎研究法 1 (※量的研究法)	吉澤	○ M	アカデミックライティング1 (英語)	カイト
		○ M	アカデミックプレゼンテーション (英語)	ギブズ	× M	外国語教育論1 (リーディング)	吉澤	○ M	外国語教育教材論2 (日本語)	三牧
		× M	アカデミックライティング2 (英語)	ギブズ	○ M	地域言語文化論1 (英米)	宇佐見	× M	第二言語習得論3 (トピックスタディ)	カイト
		○ M	コミュニケーション論	守崎	× M	地域言語文化論2 (英米)	宇佐見	× M	外国語教育学演習(外国語教育教材・メディア学)	平田
		× M	異文化コミュニケーション論 (比較文化)	守崎	○ M	異文化コミュニケーション論 (言語と社会)	高橋			
7		○ M	翻訳実践研究3 (*ノフィクション翻訳)	キブズ				○ M	外国語授業観察1	名部井
		× M	翻訳実践研究2 (*文芸翻訳2)	李				× M	外国語授業観察2	名部井
		木		金		土				
4		○ M	外国語教材開発3 (※文学作品利用)	石原	○ M	外国語教育論2 (ライティング)	山西	× M	通訳翻訳研究4 (※通訳翻訳と異文化コミュニケーション)	福井
		× M	外国語教育教材論1 (英語)	池田	○× M	外国語教育学演習 (通訳翻訳領域)	染谷			
		× M	翻訳教育方法論2	柳地 (教)	× M	翻訳実践研究1 (※文芸翻訳1)	石原	○△ M	通訳実践研究 1 (※英日逐次通訳演習)	奥村
		○ M	翻訳教育方法論1	染谷	○ M	通訳翻訳研究3 (*通訳翻訳と語用論)	パーク	×△ M	通訳実践研究 2 (※英日同時通訳演習)	宮元
5		○ M	第二言語習得論2 (社会文化的アプローチ)	八島	× M	外国語教育論5 (文法) (英語)	奥田	○ M	日本文化特論	福井
		× M	異文化コミュニケーション論 (教育・心理)	八島	○ M	外国語音声教育論 (英語)	山根	× M	外国語教育論4 (ボキャブラリ)	ハント
		○ M	小学校英語教育論	池田	× M	外国語分析論 1 (英語)	山本	○△ M	通訳実践研究 1 (※英日逐次通訳演習)	奥村
					× M	第二言語習得論1(心理・認知的アプローチ)	山根	×△ M	通訳実践研究 2 (※英日同時通訳演習)	宮元
					× M	異文化コミュニケーション論 (言語と社会)	パーク	○△ M	通訳翻訳研究1 (※基礎文献講読)	染谷
				× D	特殊講義 (通訳翻訳教育論)	染谷	○△ M	通訳翻訳研究1 (※基礎文献講読)	染谷	
				○ D	外国語教育学特殊演習2 (外国語教育実践学)	染谷				
6		○ M	外国語教育メディア論	竹内	× M	基礎研究法 3 (※質的研究法)	名部井			
		× M	外国語学習者論	竹内	○ M	外国語教材開発2 (*テキスト教材)	今井			
		× M	基礎研究法 2 (※上級教育統計法)	守崎	× M	外国語教育論3 (オーラル・コミュニケーション)	今井			
				○ M	通訳翻訳特殊研究2 (※西欧諸国の翻訳論)	三ツ木他				
7					○ M	通訳教育方法論1	染谷			
					× M	通訳教育方法論2	染谷			

Mは前期課程、Dは後期課程の科目を示す。  
○は春学期、×は秋学期、無印は通年科目  
△は隔週開講で2コマ連続で授業を行う。

前期課程 (修士) 修了要件単位 = 32単位以上  
※指導教員の担当する演習科目 4単位のほか、コア科目 4単位 (2科目) 以上を含む12単位 (6科目) 以上を通訳翻訳領域の専門科目群から履修しなければならない。

集 中 講 義 科 目	課程	科目名	担任者	時間割 (授業日程)
	M		外国語教授方法論1 (英語)	静 哲人
		外国語授業実践論2 (※英)	太田 洋	8/26,27,28,29,30
		特殊講義 (言語教育論)	ロッド・エリス	9/2,3,4,5,6
		外国語音声教育論 (日本語)	佐藤 滋	7/25,26,29,30,31
		ESP教育論	寺内 一	8/1,2,5,6
		コミュニケーション研究 (質的研究法)	箕浦 康子	5/11,18,7/13,20
		通訳翻訳特殊研究1 (※通訳翻訳実務の諸問題)	山田、岩阪、赤瀬川、染谷	2015年 1/23, 24, 29, 30, 31
		コミュニケーション研究 (トピックスタディ)	八代 京子	冬集中を予定
		アカデミックプレゼンテーション (日本語)	北野 浩章	冬集中を予定
D			応用研究法1 (コーパス論)	石川慎一郎
		応用研究法4 (トピックスタディ)	未定	7/27,30,8/6,8/7,8/8
		土曜隔週開講科目	日程	
		通訳実践研究 1 (※英日・日英逐次通訳) 春期 (2~3限)	4/12, 4/26, 5/10, 5/24, 6/7, 6/21, 7/5, 7/19 (2~3限)	
		通訳実践研究 2 (※英日同時通訳) 秋期 (2~3限)	10/4, 10/18, 11/1, 11/15, 11/22, 12/6, 12/20, 1/10 (2~3限)	
		通訳翻訳研究1 (※基礎文献講読)	4/12, 4/26, 5/10, 5/24, 6/7, 6/21, 7/5, 7/19 (4~5限)	